

JFA

サッカー施設 用具ガイドライン



公益財団法人 日本サッカー協会

2019.10.10

JFA サッカー施設用具ガイドライン

はじめに

安全で安心して、楽しくプレーできる環境を

サッカーの競技環境は、1993年のJリーグ開幕を契機としたJクラブのホームスタジアムの整備にはじまり、2002年のワールドカップ開催に向けたスタジアムの整備と劇的に“良いもの”へと変革してきた。公益財団法人日本サッカー協会は、2010年に「スタジアム標準」を作成し、大規模な観客対応施設を有するだけでなく、ホスピタリティー施設やメディア施設等を備えた「スタジアム」の建設のためのガイドラインを策定した。

また、スタジアムのみならず、実際にサッカー競技が行われる天然芝や人工芝、そして、適正な構造を有したゴールやフラッグポストなどの用具を適切に設置することが必要である。

2005年に作成した「国民体育大会サッカー競技 施設ガイドライン」（現在：2012年4月1日改訂第6版）には、サッカー競技に必要なフィールド数等を記載した施設基準に加え、サッカーゴールの構造基準とその設置方法を記載し、サッカーゴールの安全性と設置運用に関して一定の基準を示した。

2011年にはサッカー競技規則の改正により、「ゴールラインに対するゴールポストの位置」が競技規則そのものに詳細に規定されることになった。これらの基準等は、ゴールなどのサッカーに必要な「用具」の適切な設計・設置に大いに役立っている。

用具に関しては、まだ改善の余地があり、これからのフットボールセンター建設や自治体によるサッカー施設整備のため、また、サッカー用具の取り換えや追加設置のためにも、より精緻なガイドラインが必要である。さらには、サッカーのみならず、フットサルやビーチサッカーの施設建設・設置のためにも、それぞれの用具のガイドラインの策定も求められている。

「Players First」。選手が安全に、安心して、楽しくサッカーやフットサル、ビーチサッカーをプレーできるよう、ひいては質の高いプレーが展開できるよう、これらの競技のための用具が適切に設置された良好なプレー環境を整備することが必要かつ重要である。

本ガイドラインは、様々な観点から用具の仕様等について考察し、理想的な設置事例を紹介している。サッカー関係者のみならず、自治体、スポーツメーカー他、その他多くの方々に広く利用されることを願う。

※本ガイドラインはサッカー用具・施設に関する基本的な留意事項をまとめたもので、本協会が安全性等を保証するものではなく、責任を負うものではない。実際のサッカー用具の設置は、その場における安全性に十分配慮して行っていただきたい。また、より良いものとするべく内容を更新することとしているが、必ずしも最新情報が反映されていない可能性がある点をご留意いただきたい。

JFA サッカー施設用具ガイドライン

contents

I	サッカー	4
1.	サッカーフィールドの作り方	
2.	ゴール	6
	① 基本構造	
	② 補強部材の突起および隙間	8
	③ ボルトの使用	9
	④ ゴールの設置	10
3.	ゴールネット	14
	① 形状	
	② ゴールネットの取り付け方法	15
4.	フラッグポスト	18
	① 形状	
	② 設置位置と固定	
5.	その他の用具	20
II	フットサル	21
1.	ピッチの作り方	
2.	ゴール	23
3.	ゴールネット	24
4.	その他の用具	25
III	ビーチサッカー	26
1.	ピッチの作り方	
2.	ゴール	28
	① 基本構造	29
	② ゴールネット	
3.	フラッグ	30
4.	その他の用具	31
IV	ボール	32
1.	品質と規格	
2.	検定球のマーク	

JFA

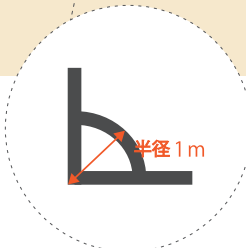
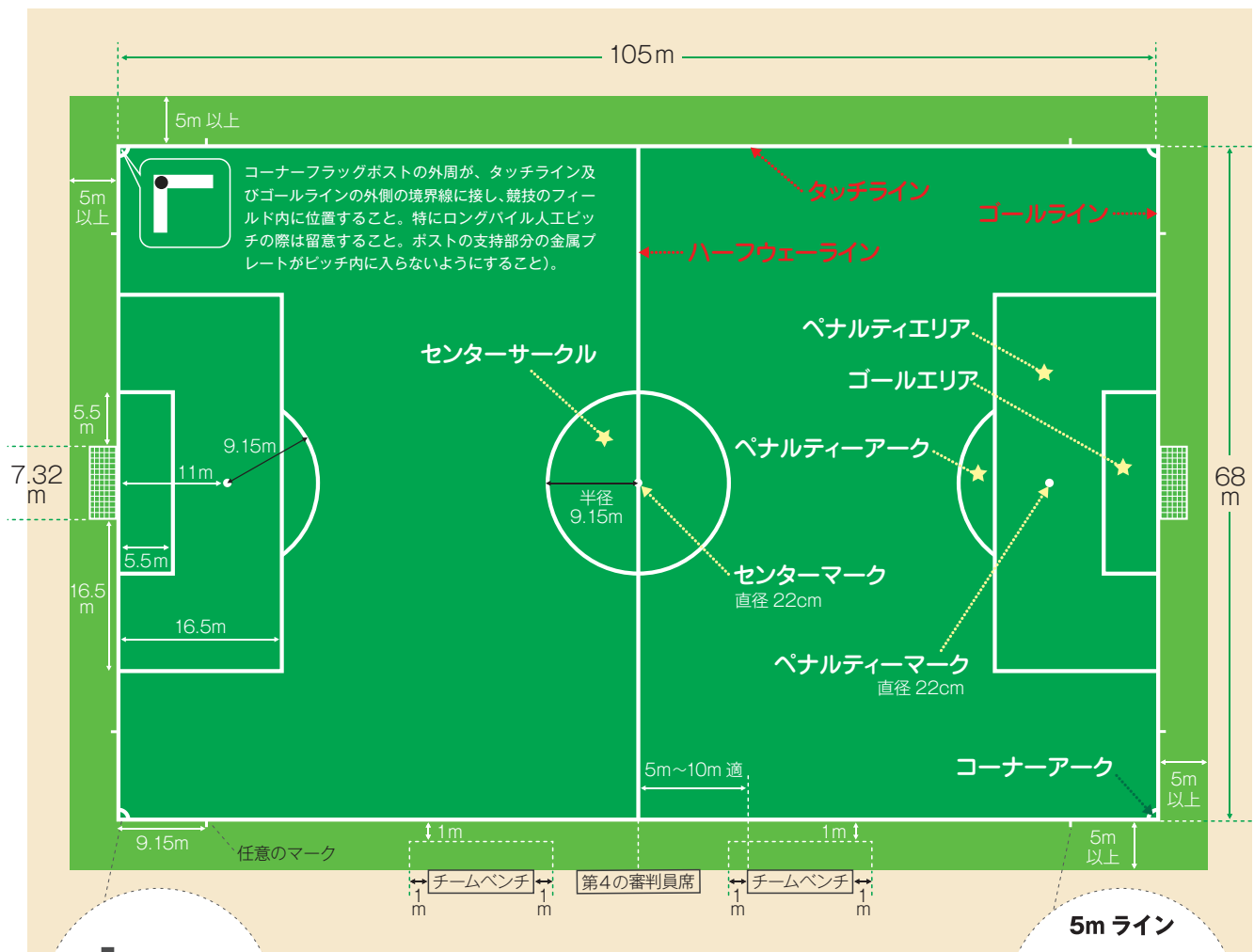
公益財団法人 日本サッカー協会

I サッカー

1. サッカーフィールドの作り方

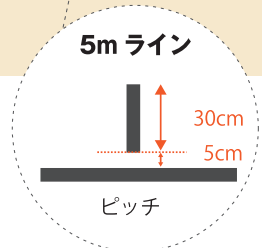
フィールドには、タッチラインとゴールラインに囲まれた、競技者がプレーするための「競技のフィールド（以下、「ピッチ」という）」、の他、ゴール、副審の走る部分などが設置される。

ピッチは、地理的条件等でタッチラインの長さ 90～120m、ゴールラインの長さ 45～90 の範囲の大きさで作ることができるが、FIFA ワールドカップ、Jリーグ、天皇杯、国民体育大会等で用いられるピッチは、タッチライン 105m、ゴールライン 68m としている。



〈ラインについて〉

- ・ エリアを囲むラインはそのエリアの一部であるので、長さはラインの外側から計測される。
- ・ ペナルティーマークの長さは、ゴールラインまでの外側の端からペナルティーマークの中心までである。



（公財）日本サッカー協会の決定

- ・ 日本国内での国際試合および国民体育大会等の全国的規模の大会での競技のフィールドの大きさは 105m × 68m とする（1985 年 11 月 21 日理事会決定）。FIFA は、ワールドカップ、オリンピック等の競技のフィールドの大きさを 105m × 68m と定めている。
- ・ センターマークおよびペナルティーマークは、直径 22cm の円で描く。

ピッチの表面

ピッチは、全体が天然、または競技会規定で認められる場合は全体が人工の表面でなければならない。ただし、競技会規定で認められる場合、人工と天然素材を組み合わせたもの（ハイブリッドシステム）を用いることもできる。（サッカー競技規則）

JFA は、人工芝について、プレー環境に適した良質な人工芝の敷設を目指し「JFA ロングパイル人工芝ピッチ公認制度」を設けている。また、国際サッカー連盟（FIFA）は、FIFA 加盟サッカー協会の代表チームまたクラブチームの国際競技会のいずれの試合において人工芝が用いられる場合、その表面は FIFA サッカー芝クオリティプログラム（FIFA Quality Programme for Football Turf）または国際試合基準（International Match Standard）の要件を満たさなければならないとしている。なお、サッカー競技規則（第 1 条）では、人工芝の色を緑色としている。

* JFA ロングパイル人工芝ピッチ公認制度ガイドブック
(<http://www.jfa.jp/documents/pdf/basic/05/01.pdf>)

フィールドのマーキング（ライン等の描き方）

ラインは、危険がないように、また、連続したラインで描かなければならない（破線は認められない）。フィールド上には、サッカーに必要なライン以外は描くことができない。なお、人工芝フィールドには、サッカーのためのラインと異なる色ではっきりと見分けられるならば、その他のラインを描くことができる（例：ラグビーのラインを黄色で描く）。

すべてのラインの幅は同じで、12cm を超えてはならず、ゴールラインの幅はゴールポストおよびクロスバーの厚さと同じでなければならない。

* 12cm幅でゴールラインとタッチラインを描き、12cm 幅のゴールを設置するのが一般的である。

【商業的広告】

競技者がフィールドに入場してからハーフタイムで離れるまで、またハーフタイム後に再入場してから試合の終了まで、有形、無形にかかわらず、次の場所に商業的広告を設置することは認められない。（サッカー競技規則）

- ピッチ内およびタッチラインとゴールラインの外側 1m 以内
- ピッチ外で以下のエリア
 - ・ゴールネットで囲まれたエリア
 - ・テクニカルエリア
 - ・レフェリーレビューエリア（RRA）
- 立型の広告は、少なくとも次の距離を離して設置する。
 - ・タッチラインから 1m
 - ・ゴールラインからは、ネットの奥行と同じ長さ
 - ・ゴールネットから 1m 以上
- 選手が安全に安心してプレーすることを考慮すると、立型広告は、タッチラインや、ゴールネットの奥行から 5m 以上離すことが望ましい。
- ゴール、ゴールネット、フラッグポストやその旗にも広告は認められない。
また、これらにカメラ、マイクロフォンなども付けてはならない。

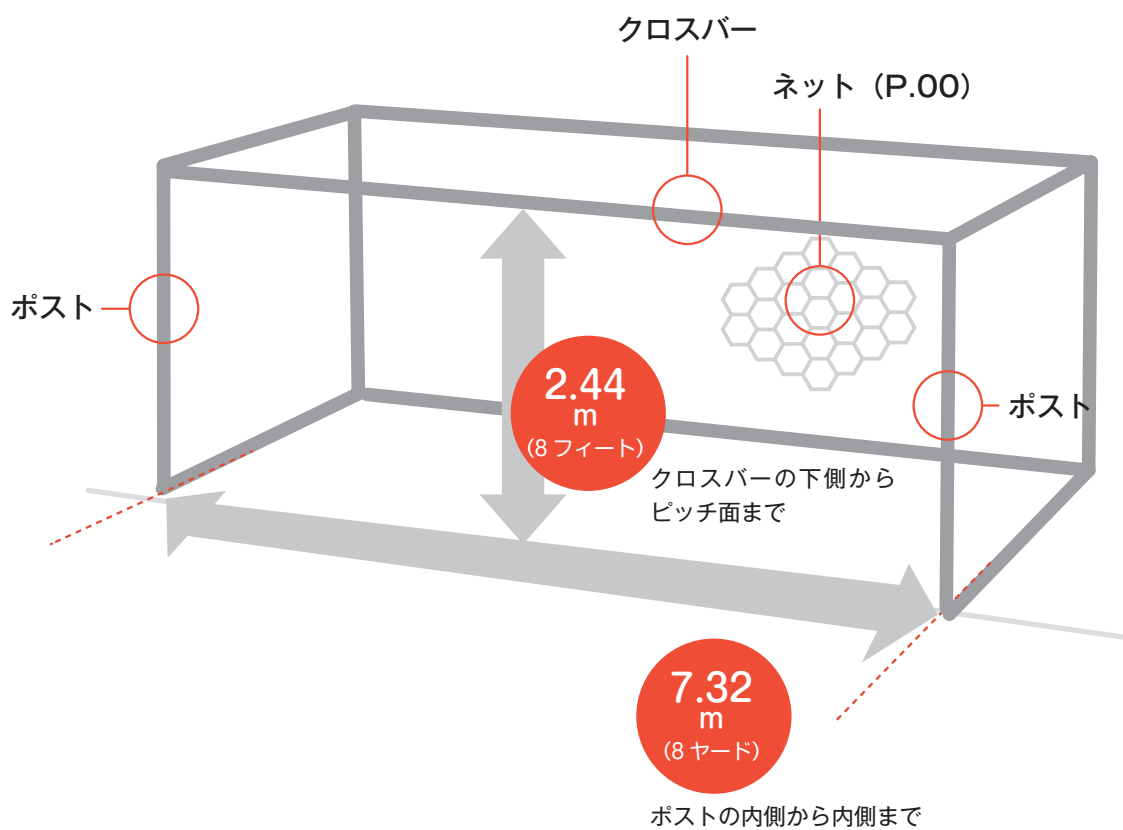
ロゴとエンブレム

有形、無形にかかわらず、プレー時間中に、FIFA、大陸連盟、各国サッカー協会、競技会、クラブ、その他の団体を表すロゴやエンブレムをフィールド、ゴールネットとそれに囲まれたエリア、ゴールおよびフラッグポストに付けることは、禁止される。ただし、フラッグポストの旗に付けることは、許可される。

2. ゴール

① 基本構造

ゴールは、ゴールポストとクロスバー、また、これらを支えるサポート支柱から構成され、ゴールポストやクロスバーには、ゴールネットを取り付けるネットフックが付けられている。



- ゴールポストとクロスバーは、同じ幅と同じ厚さで、12cm (5 インチ) 以下

素材

ゴールは、木材、鉄、アルミ等で作られるが、軽量で、転倒防止対策も容易に行えるアルミ製のものが推奨される。

構造および形状

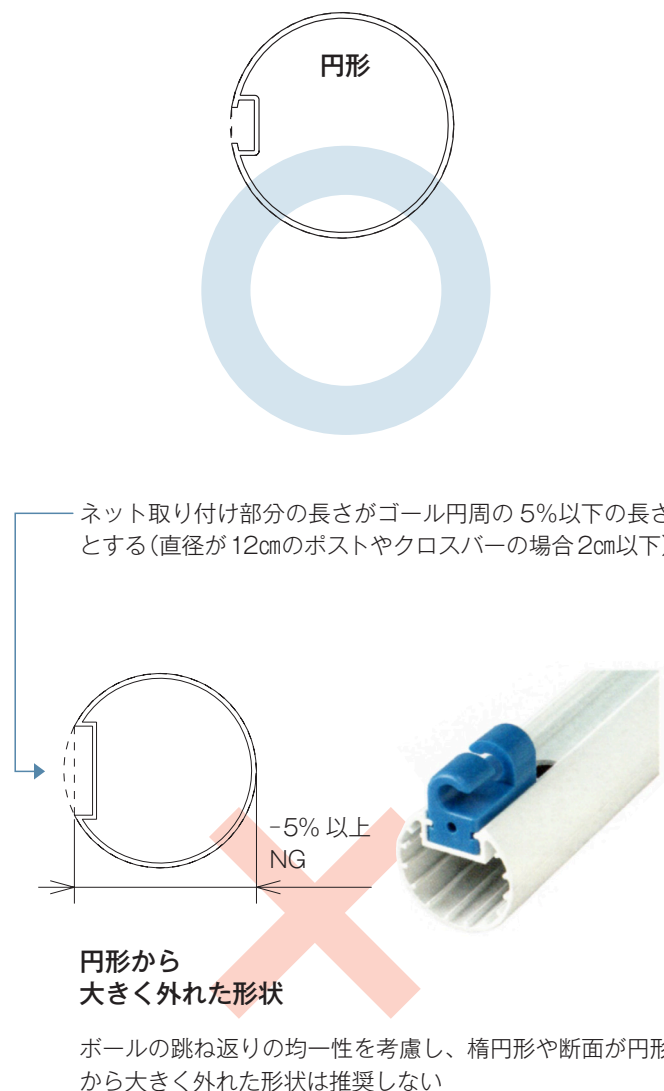
サポート支柱やウエイト等からのボールの跳ね返りがない自立型、サブポールを用いてネットを取り付ける構造のゴールが推奨される。

また、ゴールポストとクロスバーの形状は、競技規則上、円形、楕円形、正方形または長方形が認められるが、安全性の観点から、また、ボールの跳ね返りの均一性を考慮し、円形のものが推奨される。

色

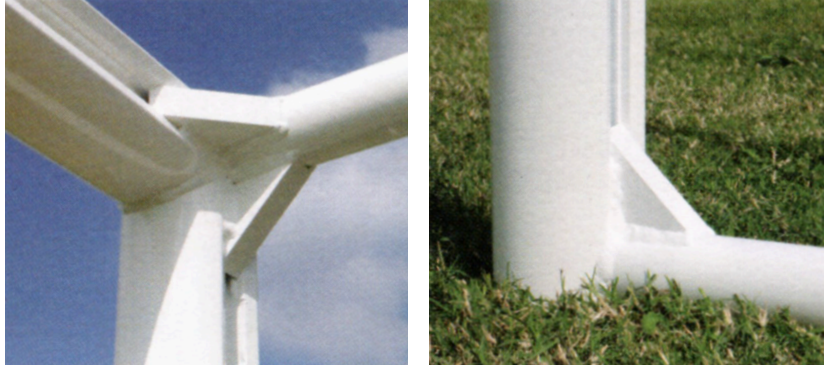
白色のみが認められる。

【円形ゴールの断面】

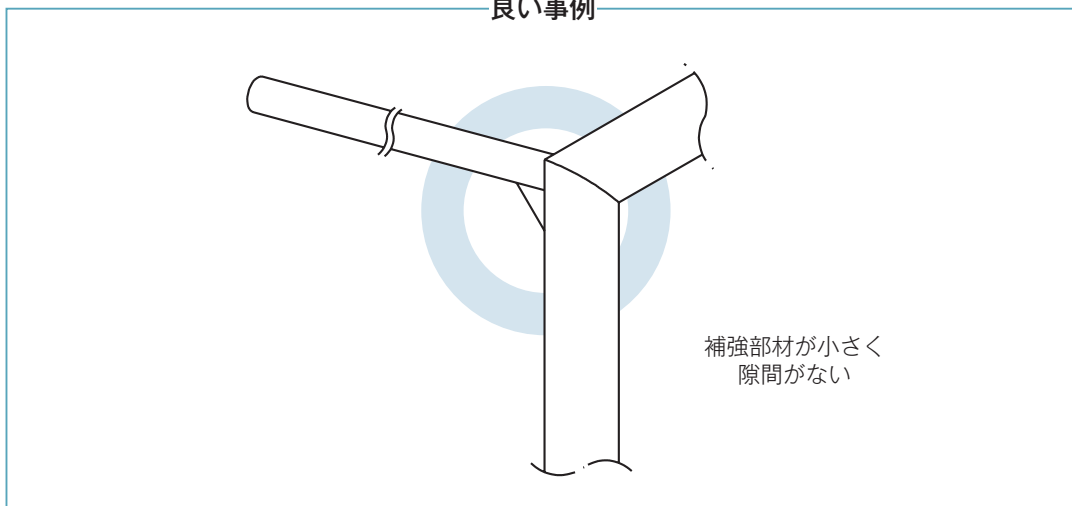


② 補強部材の突起および隙間

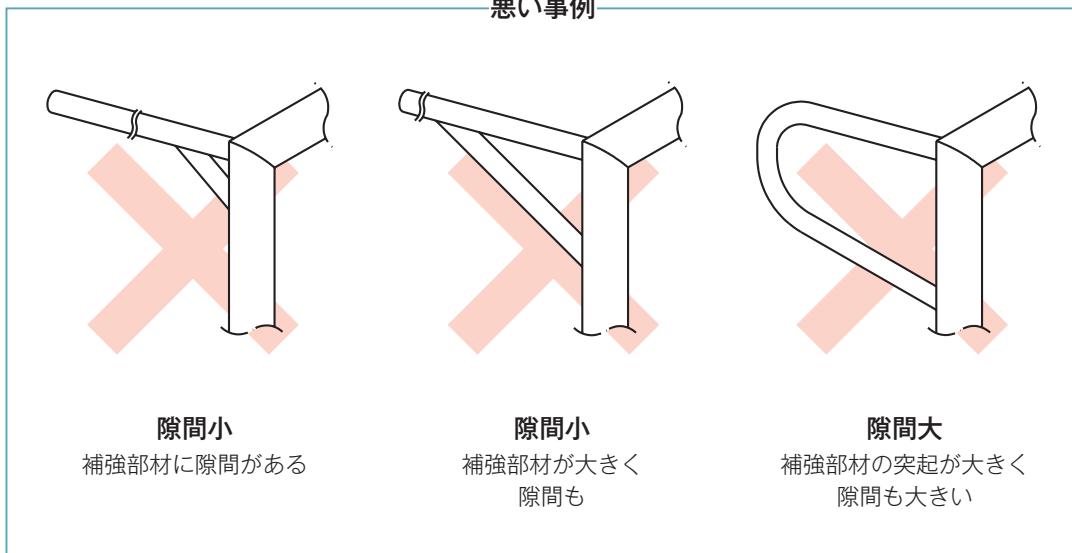
ゴールネット上面支持のための補強部材は、安全性を確保することや得点の判定を的確に行えるよう、できる限り小さくする。また、指の挟み込み防止のため、極力、隙間を設けない構造とする。



良い事例

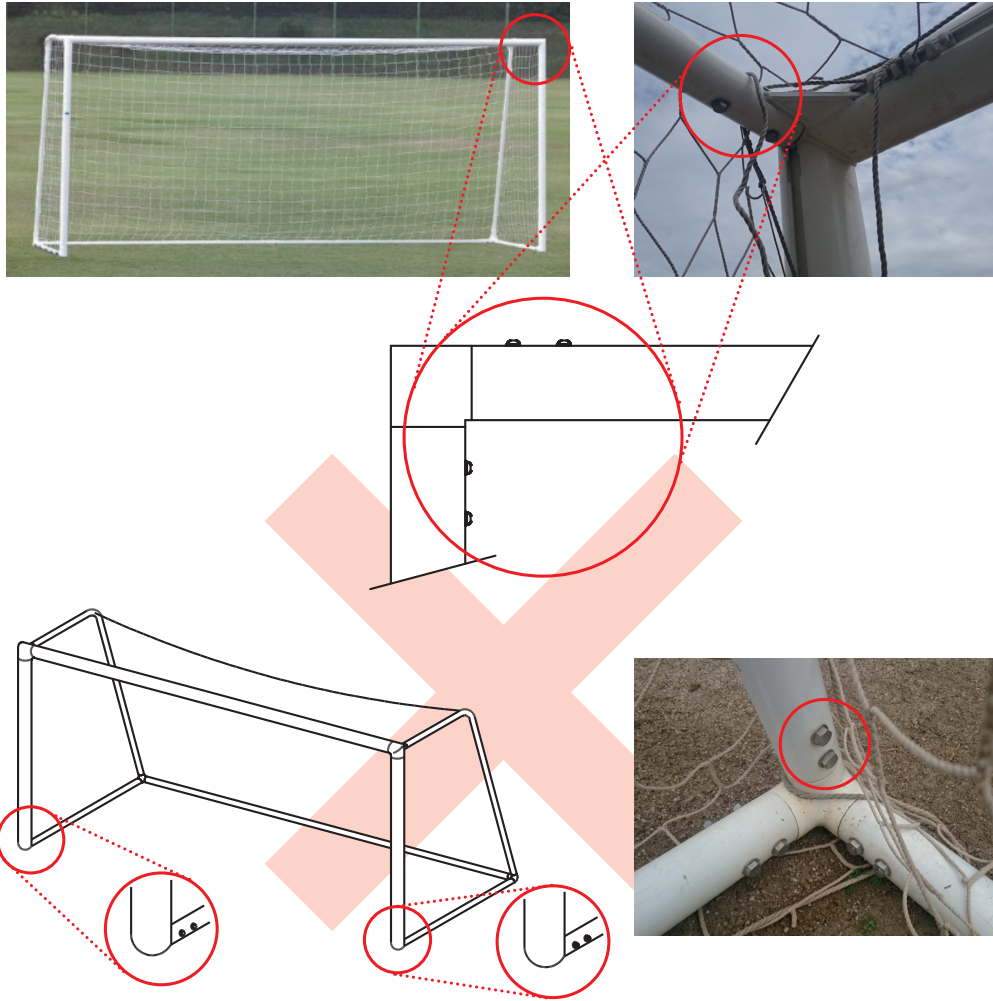


悪い事例

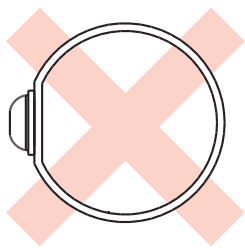


③ ボルトの使用

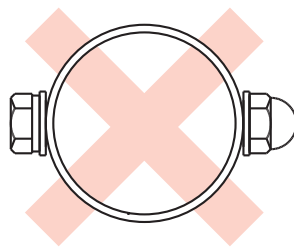
ゴールポスト・クロスバーの突起物にボールが当たった場合の跳ね返り、選手がゴールに衝突した場合の安全確保の観点から、ゴール組み立てに用いられるボルトはゴールポストやクロスバーから突起しないようにする。



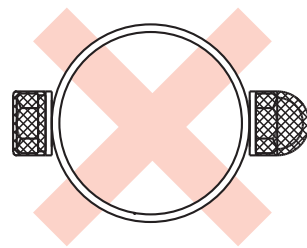
安全ではないボルトの使用例



突起小
(跳ね返りに影響あり)



突起大



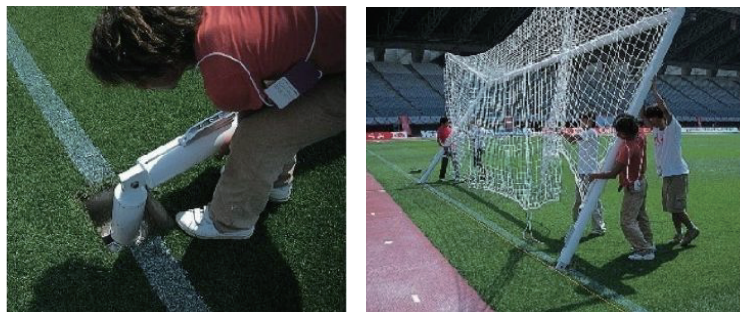
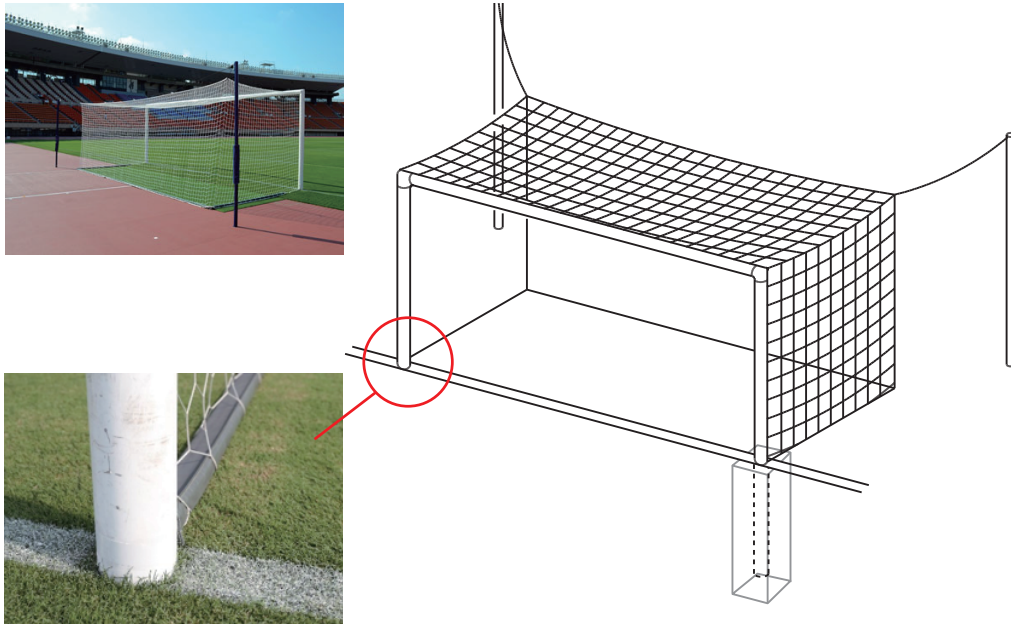
樹脂キャップ
(跳ね返りに影響あり)

④ ゴールの設置

ゴールの設置においては、ゴールが固定されており、動かない方法で設置されなければならない。

【固定式ゴール】

埋込固定式を使用する事が望ましいが、施設により移動式のゴールを使用しなければならない場合は、動かないよう固定金具や杭・ウェイト等で、確実に固定する。



〈固定式ゴール設置に必要な備品〉

- ① ネットウェイト (ネットを固定する)
- ② 抜き治具 (埋設管からゴールを抜く、設置を容易にする)
- ③ 埋設管 (ゴールの高さを調整する)
- ④ ターフトレイ (多目的フィールドを使用する場合、ゴール撤去後にグラウンドをフラットな状態に保つ)
- ⑤ サブボール (移動式も可)。白色ではなく、黒など濃い色のものとする。

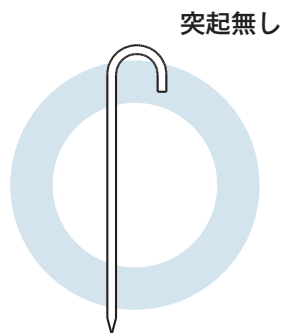
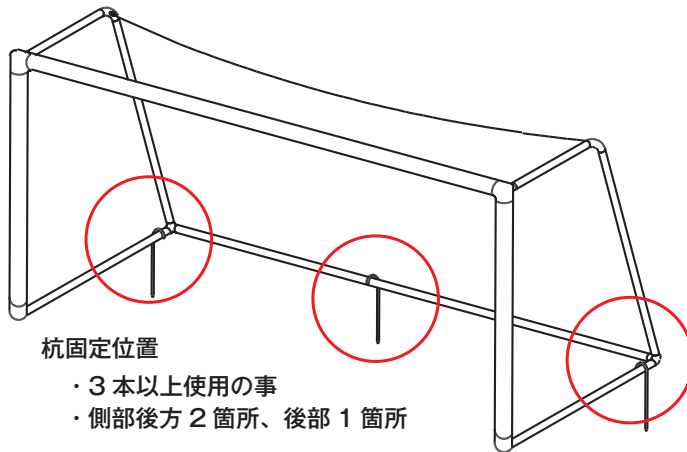
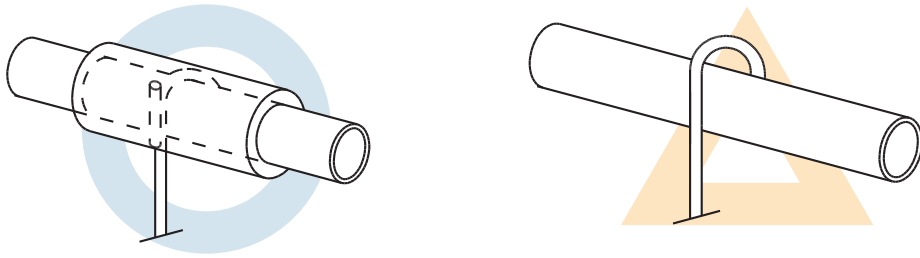
【移動式ゴール】

転倒防止を考慮すると固定式ゴールが望ましいが、移動式ゴールの使用については、杭やウェイトで固定する際は、安全に、またボールの跳ね返りを考慮して設置する。

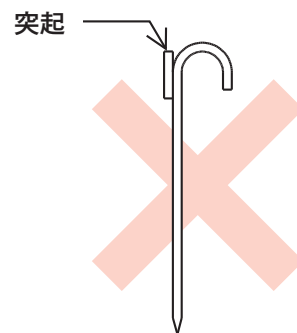


杭による固定方法

- 杭が使用できるグラウンドでは、杭による固定を標準とする。
- 杭の固定位置は、下図のとおり3箇所以上としゴールと密着するまで深く打ち込む。
- 杭の形状は、突起が無く、安全性に十分に配慮したものとする。
白色のみが認められる。



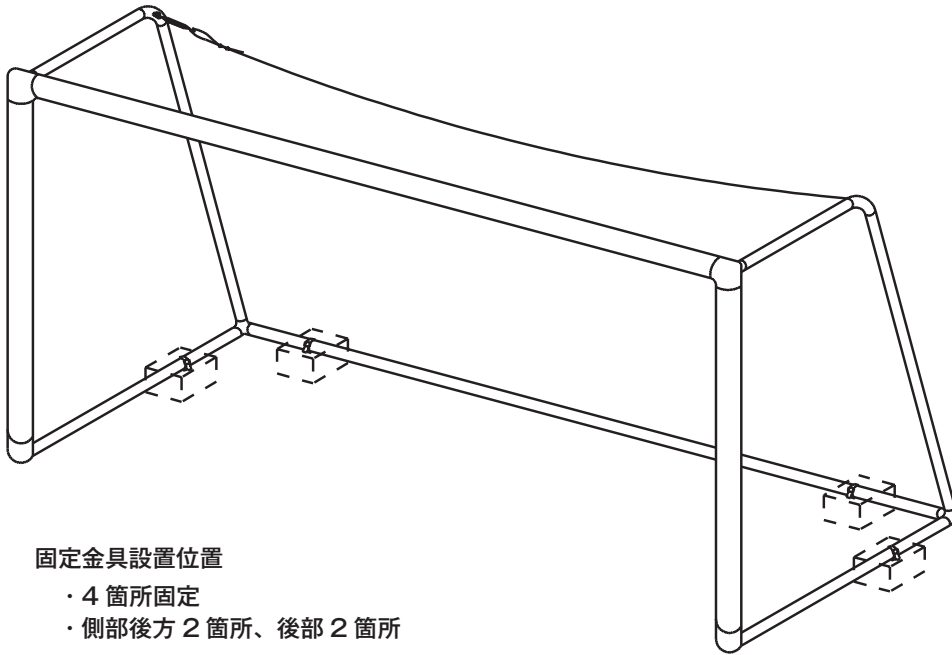
突起がないのが望ましい



打ち込み部分に突起があるものは避ける

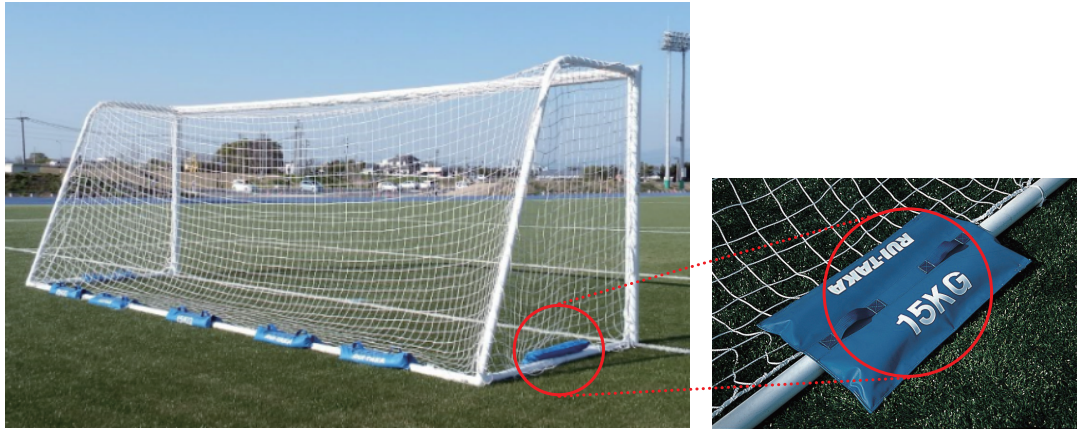
固定金具による固定方法

人工芝グラウンドなど杭が刺さらない場合には、埋め込み型の固定金具を用いて固定する方法を推奨する。固定金具には、突起を軽減した金具やナイロン製バンド等の安全に十分配慮した物を用いる（チェーン等の金属の突起が大きい物は適応外）。



■ ウェイトによる固定方法

杭、または固定金具が使用できない場合、ウェイトでの固定する。ボールが大きく跳ね返るような大きな突起物やゴールのサポート支柱をまたぐ構造のものを使用する。また、サポート支柱そのものにも突起が出ないような安全な構造とする。また、同等の要件を満たした砂袋や土のうによる固定も可能。



ウェイト設置位置

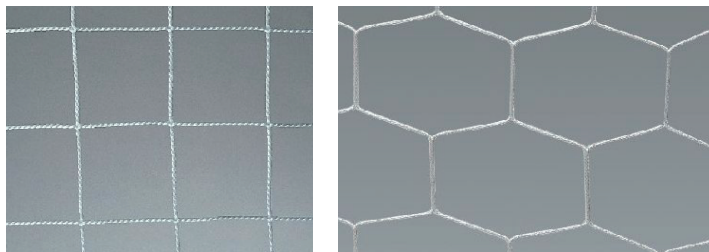
- ・ 後方は全幅に渡って設置
- ・ 側部後方 2箇所

3. ゴールネット

① 形状

形状

- ゴールポストとクロスバーの後方から取り付けられ、ゴールキーパーが余裕をもってプレーできることや安全を確保するため、十分な奥行き（上方：2 m、下方：3 m）があるものを推奨する。
- ボールの跳ね返りに影響がでないように、ゴールネットのグラウンド面との取り付けは、ある程度の余裕を持てる大きさのものであること。
- サブポールでゴールネット後方をつる場合、ゴールネットの重さや強いシュートの衝撃にも耐えられるよう、牽引ロープを取り付けられること。
- 移動式ゴールのネットは、ゴールの形状に見合う形状のゴールネットを使用する。
- ネットの網目は、ボールを弾力的に受けることができる亀甲状を推奨する。



色

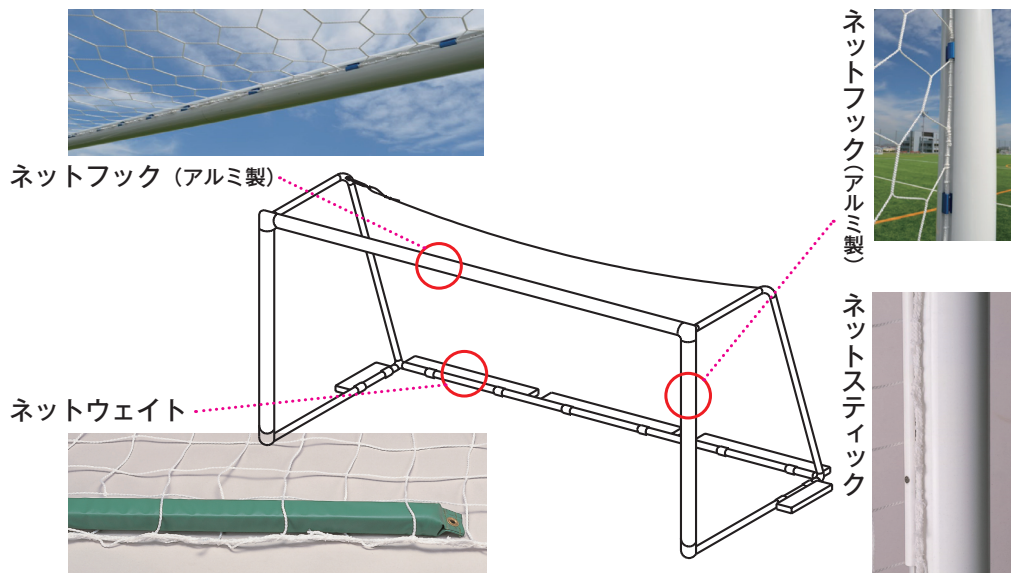
原則、白色とする。白色以外のネットは、各競技会の規定に基づき使用する。

- * 天皇杯：やむを得ず 白色以外を使用する場合は、天皇杯実施委員会に事前に申告する。
- * Jリーグ：ゴールネットは原則として白色とする（Jリーグに申請し、承認を得た場合はこの限りではない）。

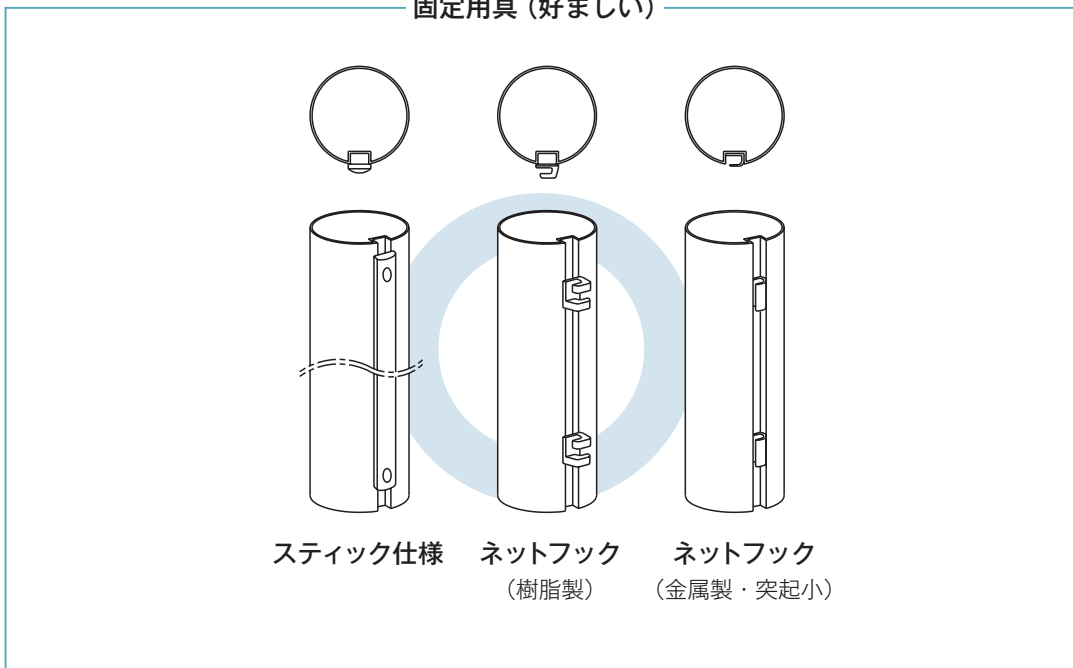
② ゴールネットの取り付け方法

- ゴールネットは、出来る限り隙間なくゴールに固定することが望ましいが、固定用具の突起を最小限に抑える構造とする。
- ゴールポスト、クロスバーにゴールネット固定用具を取り付ける場合、樹脂製のネットフックをする。突起や安全に十分に配慮された形状であれば、金属製でも認められる。
- 固定用具を使用せずゴールに直接留める場合、あるいは、固定用具間の隙間を補助的に留める場合は、白あるいは透明の幅広ビニールテープを用い、ピッチ面にネットが露出しないように固定する。ロープによる固定はほどける可能性のあるため認められない。
- シュートされたボールがゴールから抜け出ないように、ゴール後方や側方をグラウンド面に固定、またはネットウエイトを置く（張り過ぎて、ボールが跳ね返らないよう注意する）。

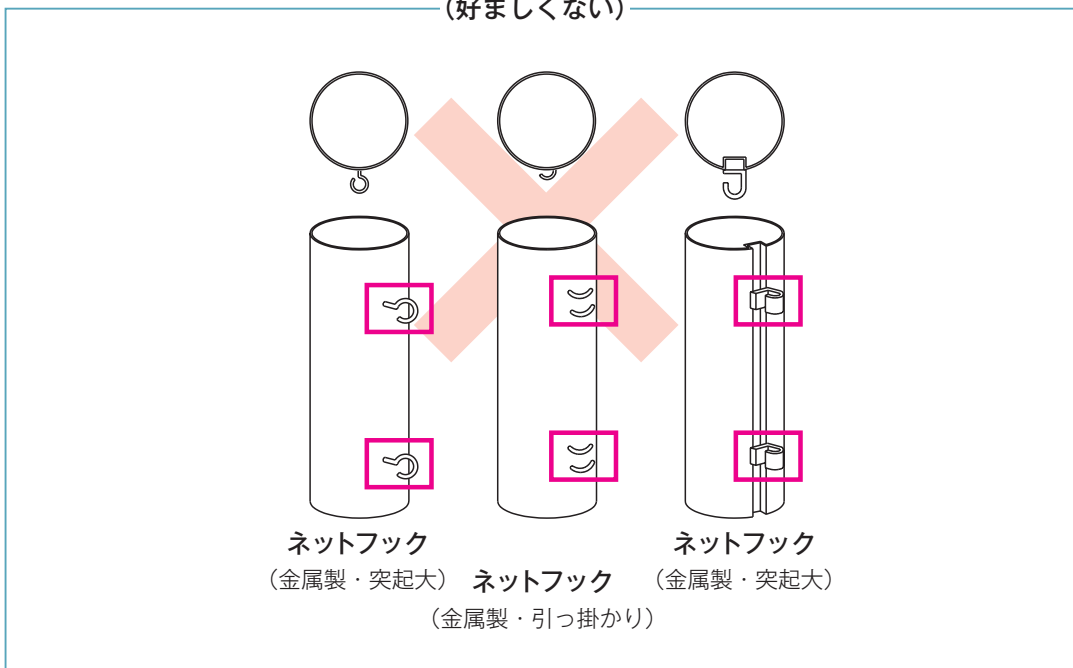
固定用具



固定用具 (好ましい)



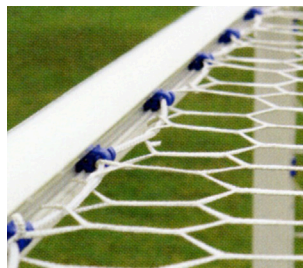
(好ましくない)



クロスバー・ゴールポスト後方の固定



クロスバー



ゴールポスト

グラウンド面との固定

埋め込み固定ゴール

グラウンド面に直接ボールの跳ね返りが無いよう、側部にフレーム支柱等を置かず、側方や後方にネットウエイトを置く、ペグで留めるなどして、芝に確実に固定する。また、後方から、サブポールを用いて、ゴールネットを吊る。

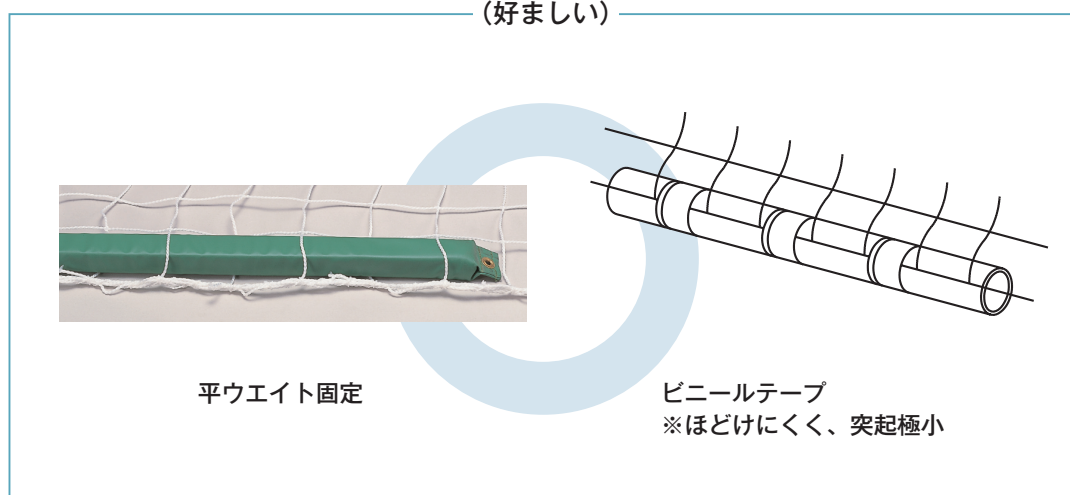
移動式ゴール

サポート支柱を用いて固定することも可能。しかし、安全や跳ね返りを考慮して、補強部材の突起や設置間隔に留意する。

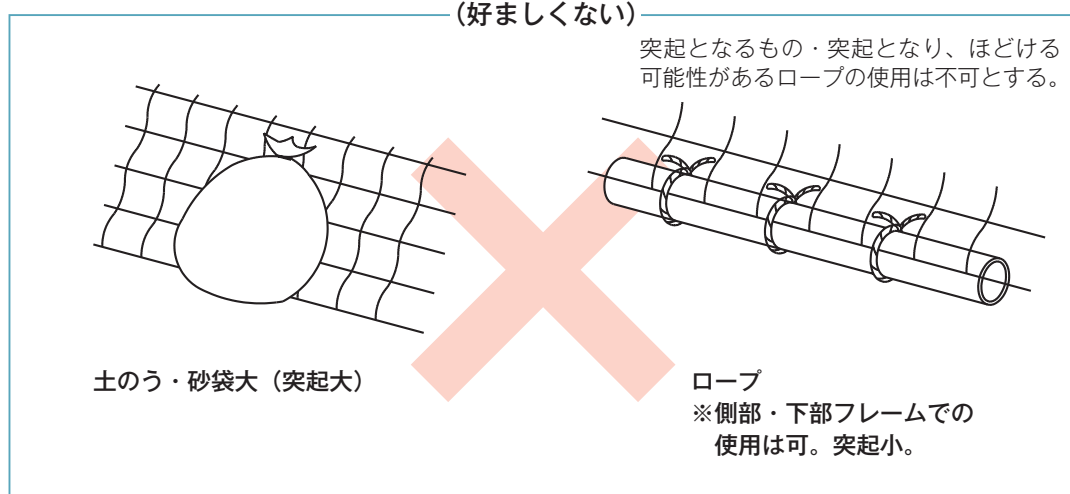
なお、ネット後方の中央部が垂れ下がり、ゴールキーパーのプレーに支障をきたす場合は、後方からゴールネットを引っ張り上げる等の措置を行う。

ネットウエイト

(好ましい)



(好ましくない)



4. フラッグポスト

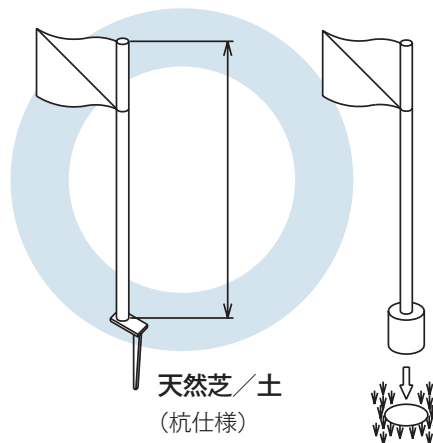
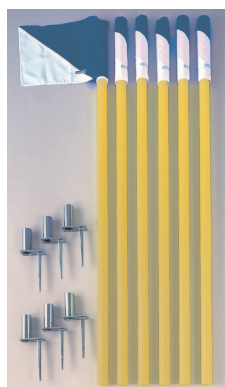
① 形状

形状

- 160cm以上の高さで、先端がとがっていないもの（160cmが一般的）。
- 太さは、直径約43mmのものが一般的である。
 - フラッグの大きさは約40cm x 約30cmのものが一般的である。
 - フラッグポスト、フラッグには、商業的広告、カメラやマイクロフォンなどをつけることは認められない。もっとも、フラッグには、FIFA、大陸連盟、各国サッカー協会、競技会、クラブ、その他の団体を表すロゴやエンブレムを付けることが認められる。

色

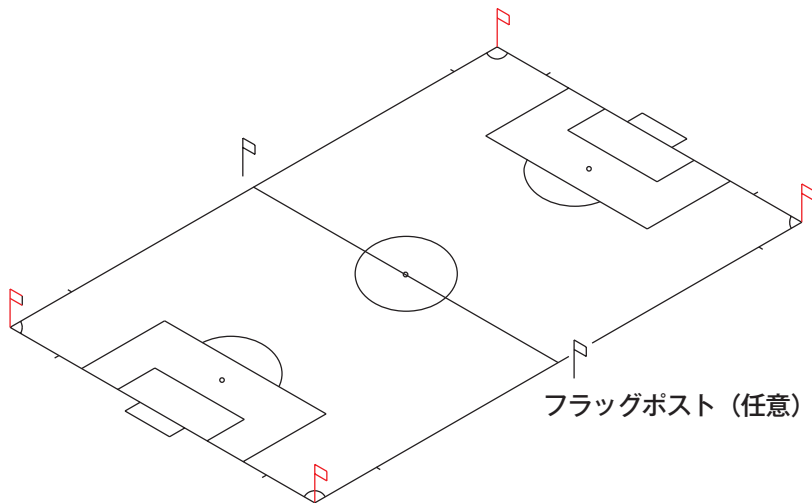
- フラッグポストは、悪天候時でも認識しやすい明るい色であること。
- フラッグは、副審が用いる、赤色や黄色と異なる白色や青色を推奨する。



天然芝/人工芝
(固定金具仕様)

② 設置位置と固定

- コーナーフラッグポストは、コーナーに立てる。
- ハーフウェーライン両端にタッチラインから1m離してフラッグポストを立てても良い。
- コーナーフラッグポストは、ポストがピッチ内に位置するように、ポストの外周がタッチラインおよびゴールラインの外側の境界線に接するように立てる。
- 天然芝や土のフィールドの場合、杭等の固定用具を用いて固定する。
- 設置金具を用いて立てる場合は、金具がピッチの外側になるようにする。
- コーナーアークは、タッチラインとゴールラインの交点から4分の1円で描く。

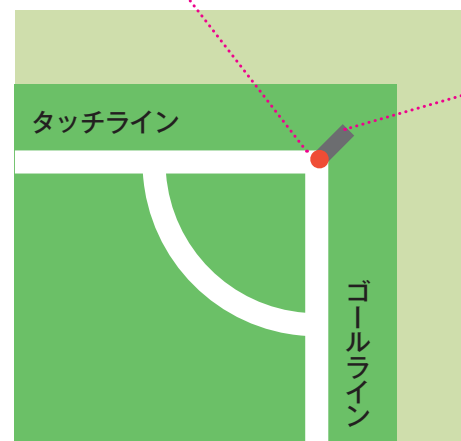


コーナーフラッグポスト (必須)

フラッグポスト (任意)



コーナーフラッグポスト



設置金具



人工芝でコーナーにフラッグポストの穴が無い場合には、「ベース」を使用することも可能。

ベースの使用

5. その他の用具 / 施設

フィールド上、あるいはその周辺には、サッカーに必要な様々な用具 / 施設が設置される。それらの規格等は様々であるが、概ね次の要件を満たすこと望まれる。

- 時計
前後半の試合時間である 45 分を掲示。
- 得点の掲示
前後半の得点に加え、延長戦の前後半や PK 方式時の結果についても掲示できることが望ましい。
- 大型スクリーン
出場選手や試合時間、得点に加えて、試合のビデオ映像等が流せるものが望ましい。
- チームベンチ
試合に氏名を登録した交代要員およびチーム役員が座れる椅子を第 4 の審判員の席から 5 ~ 10 m 離して設置する。また、雨天等を考慮し、キャノピー（天蓋）で覆うことが望まれる（キャノピーには、商業広告を掲載することが認められる）。
- 第 4 の審判員席
ハーフウェーラインの延長上で、そこから第 4 の審判員が両ベンチ、またピッチ上の試合展開を観察できるよう、タッチラインから 5 m 程度離して設置する。雨天等を考慮し、キャノピー（天蓋）で覆うことが望ましい。
- 交代ボード
第 4 の審判員が、選手交代やアディショナルタイムを表示するのに用いる。交代で退く選手とプレーに参加する選手の両方が同時に、前後で示せるものが望ましい。
- テクニカルエリア
エリア内にはチーム役員、交代要員および交代して退いた選手の座席を置く。座席部分から両横に 1m の大きさで、タッチラインから 1m 離れた場所に設置する。テクニカルエリアを明確にするために、ライン等でマーキングする。

【ピッチの表面】

ピッチは、滑らかかつ平坦で、木材、または人工の材質でできた、摩擦の無い表面とする。

【フィールドのマーキング（ライン等の描き方）】

- ラインは、ピッチの色と明瞭に識別できるもので、連続したライン（破線は認められない）で描かなければならない。
 - *他の競技のラインは、その上から「消しテープ」を用いて、見えないようにすることが望ましい。
- エリアを囲むラインは、そのエリアの一部である。
- ペナルティーエリアのラインは、ゴールの外側から 6m の距離で描く（サッカーはゴールの内側から 16.5m）。
- すべてのラインの幅は 8cm でなければならない。

（公財）日本サッカー協会の決定

- センターマーク、ペナルティマークおよび第 2 ペナルティマークは、直径 20cm の円で描く。
- （コーナーキックを行うときに守備側競技者に離れる距離を確実に守らせるため、コーナーアークから 5m 離れたところに描く）マークは、ゴールラインから 5cm 離して直角に 30cm の長さで描く。5m の距離は、コーナーアークの外側から、このマークのゴール側の端までとする。

【商業的広告】

- 大会規定で禁止していない限り、選手や審判員に混乱を与えないのであれば、ピッチ上、テクニカルエリアの床面上の平面広告、また、ゴールネット上の広告も認められる。
- 立型の広告は、テクニカルエリアおよび交代ゾーンを除き、タッチラインから 1m 以上離し、ゴールライン側については、ピッチ外で、ネットの奥行と同じ長さでゴールネットから 1m 以上離して設置することが認められている。

2. ゴール

ゴールは、ゴールポストとクロスバー、また、これらを支えるサポート柱から構成され、ゴールポストやクロスバーには、ゴールネットを取り付けるネットフックが付けられている。

- 高さ2 m（クロスバーの下側からピッチ面まで）
- 幅3 m（ポストの内側から内側まで）
- ゴールネットで囲まれた部分は、タッチラインからそれぞれ下部で1 m以上、上部で80cm 以上

材質

ゴールは、木材、鉄、アルミ等で作られるが、軽量で転倒防止対策も容易に行えるアルミ製が推奨される。

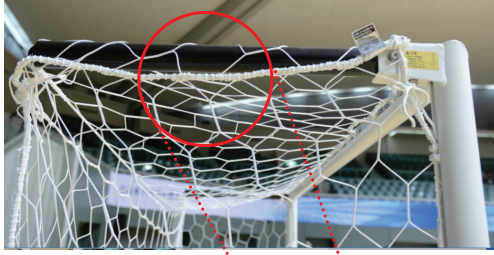
構造および形状

- フットサルのピッチは狭いため、ゴールに選手が衝突する可能性が高い。選手の安全を考慮し、移動式ゴールの使用が望ましい。容易に動いたり、転倒しないよう転倒防止のための仕組みが施されていないといけない。
- ゴールは、正方形、円形、楕円形のいずれかでなければならず、選手に危険なものであってはならない。安全上の観点から、また、ボールの跳ね返りの均一性を考慮し、円形のものが推奨される。
- ボールの跳ね返りに影響するようなサポートバーが無い方が望ましい。

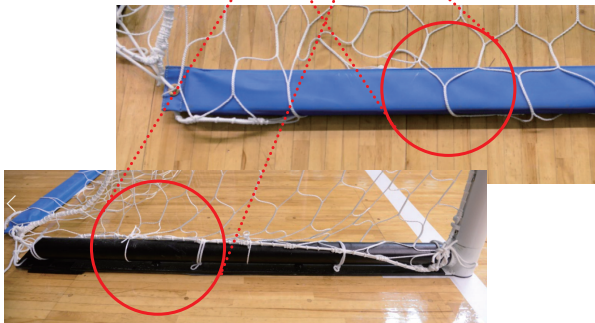
色

ピッチの色と異なった色でなければならない（白色が望ましい）。

3. ゴールネット



ボールの
跳ね返りに影響する
バーがない方がよい



転倒防止のため、ウェイトで
しっかり固定する

* 「補強材の突起および隙間」、「ボルトの使用」は、サッカーのゴールを参照
(それぞれ P. 8、P. 9 参照)

4. その他の用具

ピッチ上、あるいはその周辺には、フットサルに必要な様々な用具が設置される。各用具の規格等は様々であるが、概ね次の要件を満たすものが望ましい。

- 時計
前後半の試合時間である 20 分をカウントダウンで掲示し、前後半終了時に、施設内に音が聞こえる適度の音量を持ったブザーが自動的に吹鳴する機能があり、タイムキーパーが容易に時間を進行、停止、また掲示時間を修正できるもの。加えて、1 分のタイムアウトの掲示、また、タイムアウト取得チームを前後半別々に示せるものが良い。
- 得点および累積ファウル数の掲示
前後半に加え、延長戦の前後半、PK 方式時の結果についても掲示できることが望ましい。得点に加えそれぞれ前後半に犯された累積ファウル、また、チームが 5 つ目の累積ファウルを犯した時を知らせるブザーが付帯する必要がある。
- 大型スクリーン
出場メンバーや試合時間、得点に加えて、試合のビデオ映像等が流せるものが望ましい。
- チームベンチ
試合に氏名を登録した交代要員およびチーム役員が着席できる椅子を設置する。
- タイムキーパー机
ハーフウェーラインの延長上で、そこから第 3 審判が両ベンチ、またピッチ上の試合展開を観察できるよう、また、タイムキーパーが試合展開を監視しつつタイムキーピング等のための用具を操作できる程度の大きさの机を設置する。タイムキーパー机に累積ファウル数を示す用具を置くことも可能。
- テクニカルエリア
エリア内にはチーム役員、交代要員および交代して退いた選手の座席を置く。座席部分から両横に 1m の大きさで、タッチラインから 75cm 以上離れた場所に設置する。テクニカルエリアを明確にするために、ライン等でマーキングする。

【ピッチの表面】

- 表面は砂でできていて、水平であり、選手を負傷させる可能性のある石や貝、その他危険なものが取り除かれていること。
- (国際競技会では) 砂は粒が細かく、40 cm 以上の深さがなければならない。
- 砂は競技者のプレーに支障がないよう、粒子が荒すぎたり、石や危険なものを含んではならないが、皮膚に付着するほどまで過度に細かくてはいけない。

【フィールドのマーキング（ラインの設置）】

- タッチラインとゴールラインを 10cm幅の砂とは対照的な色で着色したテープ（青色が望ましい）でマークする。
- テープは弾力性があり、切れにくく、選手や審判員の足を傷つけないもの。
- タッチラインは、コーナーとタッチラインの中央で、留め具を用いて砂にしっかりと固定する。
- ゴールラインは、コーナーと留め具を用い、ゴールポストとはゴム製のリングで固定する。
- ゴールの両ポスト間は、マーキングしない。

【広告】

- 大会規定で禁止していない限り、選手や審判員に混乱を与えないのであれば、ピッチ上、テクニカルエリアの床面上の平面広告、また、ゴールネット上の広告も認められる。
- 立型の広告は、テクニカルエリアおよび交代ゾーンを除き、タッチラインから 1m 以上離し、ゴールライン側については、ピッチ外で、ネットの奥行と同じ長さでゴールネットから 1m 以上離して設置することが認められている。

2. ゴール

① 基本構造

素材

ゴールは、木材、鉄、アルミ等で作られるが、軽量で、転倒防止対策も容易に行えるアルミ製のものが推奨される。

構造と形状

- ゴールポストとクロスバーの直径は、同じく 10cm で、これらの形状は、競技規則上、円形、楕円形が認められるが（正方形、長方形は認められない）。
- 安全性の観点から、また、ボールの跳ね返りの均一性を考慮し、円形のものが推奨される。
- ポストの下端に砂の下で固定するための支えとなるものを取り付ける。
- 両ポストの後方に取り付けられた長さ 1.5m の 2 本の水平なバーは、両端にフックと締め紐があるプラスチックで覆われたチェーンまたはバーで連結して砂の表面に設置する。このバー（チェーン）も砂にしっかり固定する。

色

ポストとクロスバーは同一色で、蛍光黄色が望まれる。

2. ゴールネット



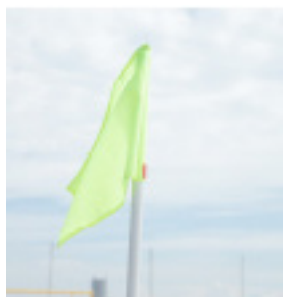
砂にしっかり固定する



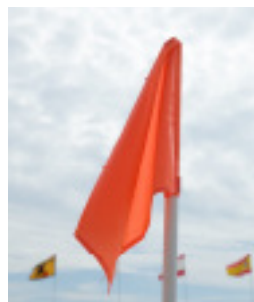
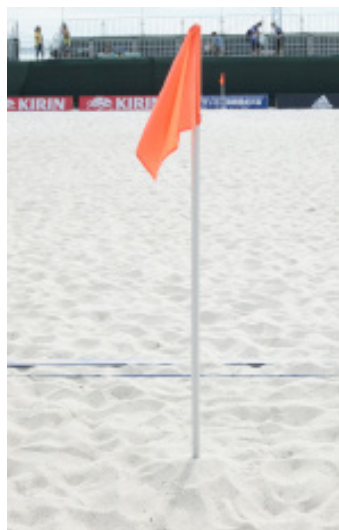
※「補強材の突起および隙間」、「ボルトの使用」、「ゴールネット」は、サッカーのゴールを参照
(それぞれ P. 8、P. 9、P.14)

3. フラッグ

- タッチラインとゴールラインの交点に赤色のフラッグを立てる。
- 仮定のペナルティーエリアを示す仮定のラインの両端に黄色のフラッグをタッチラインから 1 ～ 1.5 m 離して立てる。
- フラッグは正方形で、30cm x 30cmの大きさが一般的である。



- 仮定のハーフウェーラインの両端に赤色のフラッグをタッチラインから 1 ～ 1.5 m 離して立てる。



- フラッグポストは、壊れない柔軟なプラスチックで作られており、少なくとも 150cm 以上の高さでなければならない。

4. その他の用具

ピッチ上、あるいはその周辺には、ビーチサッカーに必要な様々な用具を設置する。用具の規格等は様々であるが、概ね次の要件を満たすことが望ましい。

- 時計
各ピリオドの試合時間である 12 分をカウントダウンで掲示し、タイムキーパーが時間の進行、停止、掲示時間の修正が容易にできるもの。
- エアホーン
各ピリオド終了時を知らせるために、施設内に十分な音が聞こえる適度の音量を持ったエアホーンを用意する。
- 得点の掲示
3ピリオドに加え、延長戦、加えて PK 方式時の得点についても掲示できることが望ましい。
- 大型スクリーン
出場メンバーや試合時間、得点に加えて、試合のビデオ映像等が流せるものが望ましい。
- タイムキーパー機
ハーフウェーラインの延長上で、そこから第3 審判が両ベンチ、またピッチ上の試合展開を観察できるよう、また、タイムキーパーが試合展開を監視しつつタイムキーピング等のための用具を操作できる程度の大きさの機を設置する。
- テクニカルエリア
エリア内にはチーム役員、交代要員および交代して退いた競技者の座席を置く。
座席部分から両横に 1m の大きさで、タッチラインから 1 m 離れた場所に設置する。
テクニカルエリアを明確にするために、ライン等でマーキングする。
- チームベンチ
テクニカルエリア内に、試合に氏名を登録した交代要員およびチーム役員が座れる椅子を設置する。
ベンチには、直射日光を避けるためにも、キャノピー（天蓋）を設置することが望ましい。

IV ボール

サッカー、フットサルおよびビーチサッカーで用いられるボールは、次のものである。

1. 品質と規格

- 球形
- 適切な素材（人工の材質や皮革で出来ている）
- 外周および空気圧は、試合中、常に下図の範囲内になければならない。
- 重さは、試合開始時に下図の範囲内でなければならぬ。
- フットサルのボールは、2mの高さから落下したとき、最初のバウンドが50～65cmの範囲になければならない（ローバウンド）。
- 本協会の加盟登録団体が参加する国内競技会においては検定に合格し「検定球」を使用しなければならない。

(検定球の規格)

サイズ	サッカー			フットサル		ビーチサッカー
	5号球	5号軽量球 (シニア)	4号球 (U-12)	4号球	3号球 (U-12)	5号球
重量	410 } 450 g	340 } 410 g未満	350 } 390 g	400 } 440 g	350 } 390 g	400 } 440 g
外周	68.0 } 70.0 cm	68.0 } 70.0 cm	63.5 } 66.0 cm	62.0 } 64.0 cm	58.0 } 60.0 cm	68.0 } 70.0 cm
空気圧	22.0 cm	22.0 cm	20.5 cm	20.5 cm	19.0 cm	22.0 cm
空気圧の損失	25% 以下					

2. 検定球のマーク

FIFA 承認を受けているボールには「FIFA 承認マーク」と「JFA 検定マークを」併記する。

JFA 検定球マーク			
FIFA 承認マーク			
	FIFA クオリティプロ	FIFA クオリティ	

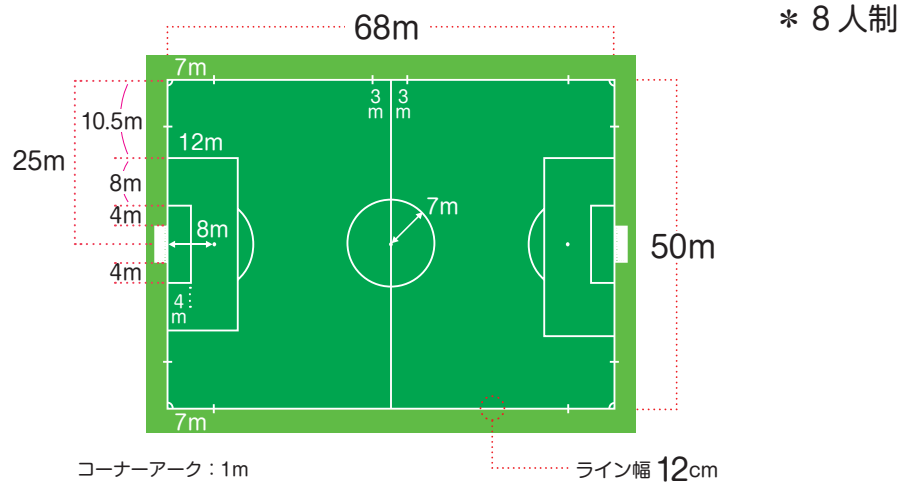
【広告】

公式競技会の試合では、ボールに一切の商業的広告を付けることは認められない。ただし、競技会、競技会の主催者のロゴやエンブレムおよびメーカーの承認された商標を付けることは認められる。

〈参考1〉 U-12 のピッチとゴール、ボールの大きさ

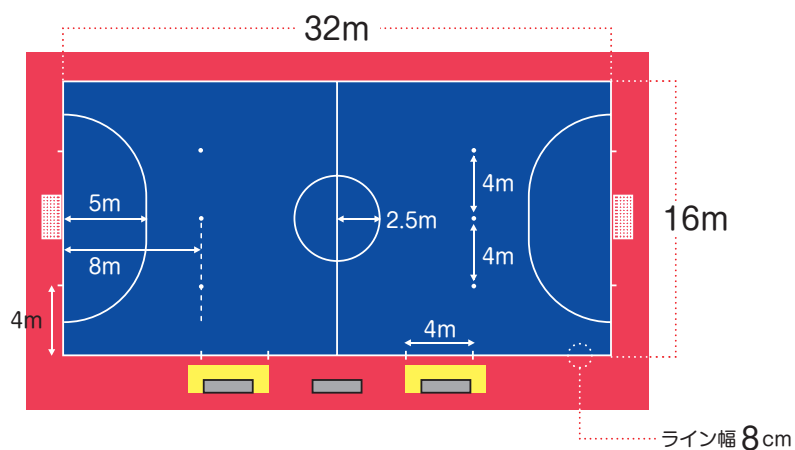
育成年代のサッカー・フットサルでは、選手の体格、発育や発達にあわせて、適切なピッチサイズ、ゴールサイズを使用することとしている。

サッカー U-12



- ゴール ポスト間: 5.0 m ピッチ面からの高さ: 2.15 m
- ボール サッカー 4号球

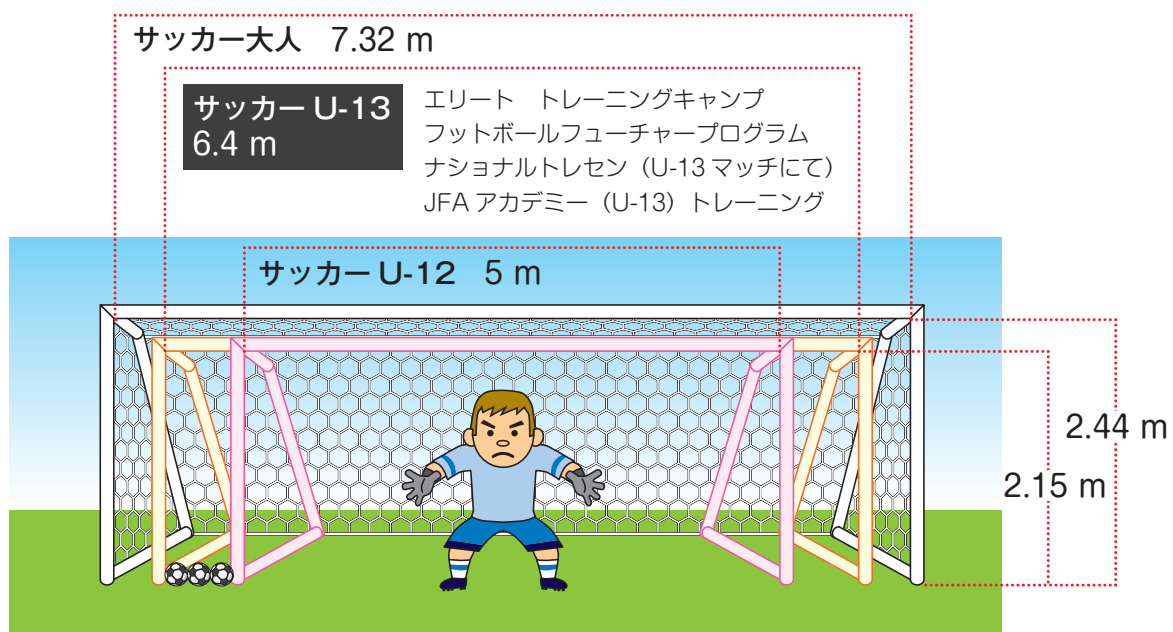
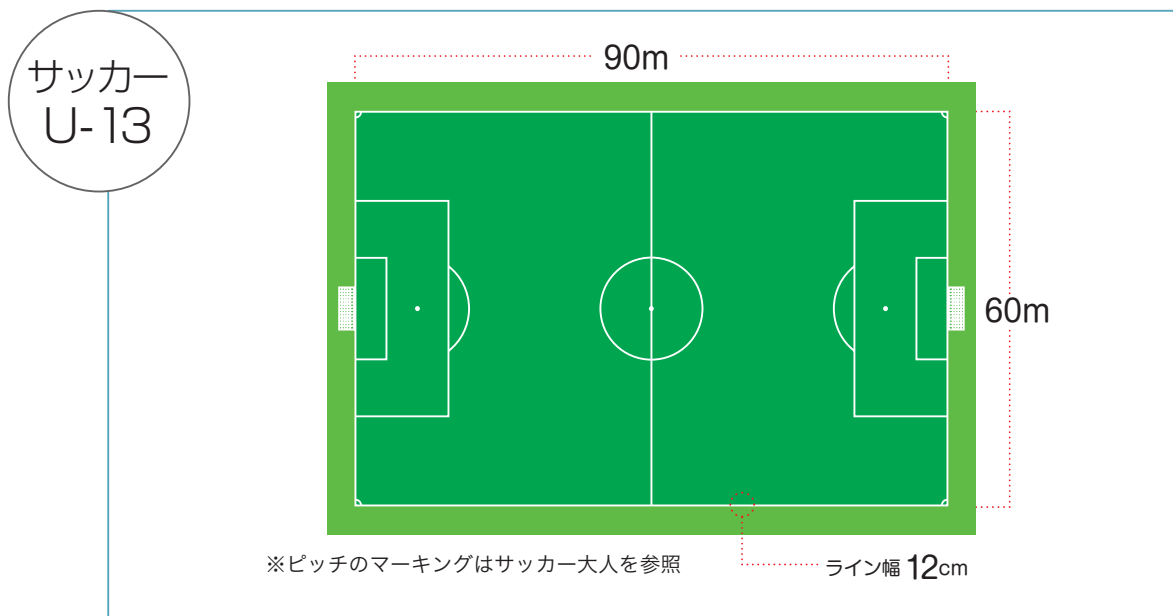
フットサル U-12



- ゴール ポスト間: 3 m ピッチ面からの高さ: 2 m ※一般と同じ
- ボール フットサル 3号球

〈参考2〉 U-13 のピッチとゴール（中間ゴール）

JFA は、フィールドプレーヤーとゴールキーパーのプレーの難易度は、すべての年代において同じバランスであることが望ましいと考える。U-13 のトレーニング・センターなどでは、一般のピッチやゴールよりも小さく、U-12 用ゴールより大きいピッチの大きさ、「中間ゴール」を使用している（ボールは一般と同じく 5 号球）。各サイズは下記図を参照。



〈U-13 で大人ゴールより小さい中間ゴールを使用する効果〉

・フィールドプレーヤーへの効果

ゴールを狙う意識：空いているコースを見つけやすく、積極的にシュートを打つ意識が高まる
シュートテクニック：コースをねらってしっかりと正確に蹴らないと得点にならない

・ゴールキーパーへの効果

ポジショニング：前後左右のバランス、的確な位置にバランスよく構えることで、
ゴール守ることができる

足を運ぶ：適切なポジションに立ち、足を運ばないと守れない横幅

JFA サッカー施設用具ガイドライン

初版 2019年10月10日

〈参考文献〉

2019/2020 サッカー競技規則
2018/2019 フットサル競技規則
2015/2016 ビーチサッカー競技規則
8人制サッカー競技規則
天皇杯 JFA 全日本サッカー選手権大会運営規定
スタジアム標準
JFA ロングバイル人工芝ピッチ公認制度ガイドブック
サッカーボール等の検定制度ガイドライン
Jリーグスタジアム基準

〈問い合わせ〉

JFA

公益財団法人日本サッカー協会
Tel. 050-2018-1990